

洪水・内水ハザードマップについて

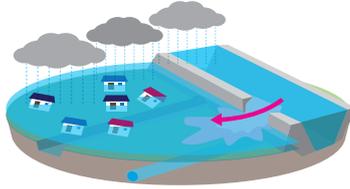


浸水の基礎知識 外水氾濫と内水氾濫の違い

浸水には、要因により外水氾濫と内水氾濫の2種類があります。

近年は、気候変動に伴う降雨量の増加などにより外水氾濫だけでなく、下水道などの水があふれる内水氾濫の被害にも注意が必要となっています。それぞれの特徴や、とるべき行動を確認しましょう。

外水氾濫



内水氾濫



用語の説明	河川の堤防から水があふれ又は破堤して浸水すること	雨水を排水しきれずに下水道などから水があふれ浸水すること
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●長時間にわたって大雨が降り続いた場合などに発生する危険性がある ●発生頻度は低いものの、甚大な被害をもたらす 	<ul style="list-style-type: none"> ●短時間であっても強い雨が降った場合などに発生する危険性がある ●比較的発生頻度が高い
浸水規模	<ul style="list-style-type: none"> ●広範囲で深い ●建物の2階以上まで水没したり、建物が流されてしまうおそれ 	<ul style="list-style-type: none"> ●(外水氾濫より)局地的で浅い ●道路が冠水したり、主に建物の1階が浸水するおそれ

浸水の想定条件

洪水ハザードマップと内水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨(おおむね1,000年に1度)により想定される浸水の状況をシミュレーションして作成しています。対象となる河川や想定降雨量などは次の一覧のとおりです。

洪水ハザードマップ		浸水の要因 / 河川の氾濫による浸水				対象区域 / 市内全域			
推定水量	洪水予報河川	石狩川(上流)	348mm/72時間	美瑛川	422mm/72時間	忠別川	457mm/72時間	牛朱別川	466mm/72時間
	水位周知河川	オサラッペ川	478mm/72時間	江丹別川	507mm/24時間	比布川	515mm/24時間	ペーバン川	484mm/72時間
		辺別川	477mm/72時間	倉沼川	515mm/72時間	ボン川	527.9mm/24時間	牛朱別川・当麻川	493mm/72時間
中小河川	内大部川	138mm/2時間	ウツベツ川	160mm/2時間	東光川	125mm/1時間	小股川分水路	125mm/1時間	
	オロエン川	125mm/1時間	オホーツナイ川	125mm/1時間	栄川	125mm/1時間	難波田川	125mm/1時間	
	伊野川	155mm/2時間	南校川	125mm/1時間	近文オホーツナイ川	125mm/1時間	愛宕新川	109mm/1時間	
	神居川	125mm/1時間	五号川	125mm/1時間	基北川	129mm/1時間	難波田川分水路	125mm/1時間	
	秋葉の沢川	125mm/1時間	雨紛川	129mm/1時間	ボンウシベツ川	125mm/1時間	ペーバン川	484mm/72時間	
	西里川	126mm/1時間	西八号川	125mm/1時間	ボンウシベツ川分水路	125mm/1時間	ペーバン第三支川	125mm/1時間	
	拓北川	125mm/1時間	十五号川	125mm/1時間	小股川	125mm/1時間	神水川	134mm/1時間	
	ヨシカシベツ川	144mm/2時間	辺別川	113mm/1時間	永山二号川	129mm/1時間	近文内川	125mm/1時間	
	ハイシユベツ川	141mm/1時間	千代ヶ岡川	125mm/1時間	永山3号川	125mm/1時間	桜川	125mm/1時間	
	キムグシユベツ川	125mm/1時間	アイヌ川	125mm/1時間					
	内水ハザードマップ		浸水の要因 / 雨水を排水しきれずに下水道などから水があふれることによる浸水				対象区域 / 主に下水道で雨水を排水している区域		
	推定水量	短時間の強い雨		125mm/1時間					

※洪水予報河川：流域面積が大きい河川で、洪水により国民経済上重大または相当な損害を生じるおそれがある河川。
 ※水位周知河川：洪水予報河川以外の河川のうち、洪水により国民経済上重大または相当な損害を生じるおそれがある河川。
 ※雨の降り方によっては想定した浸水深よりも深くなったり、着色されていない地域で浸水が発生することがあります。

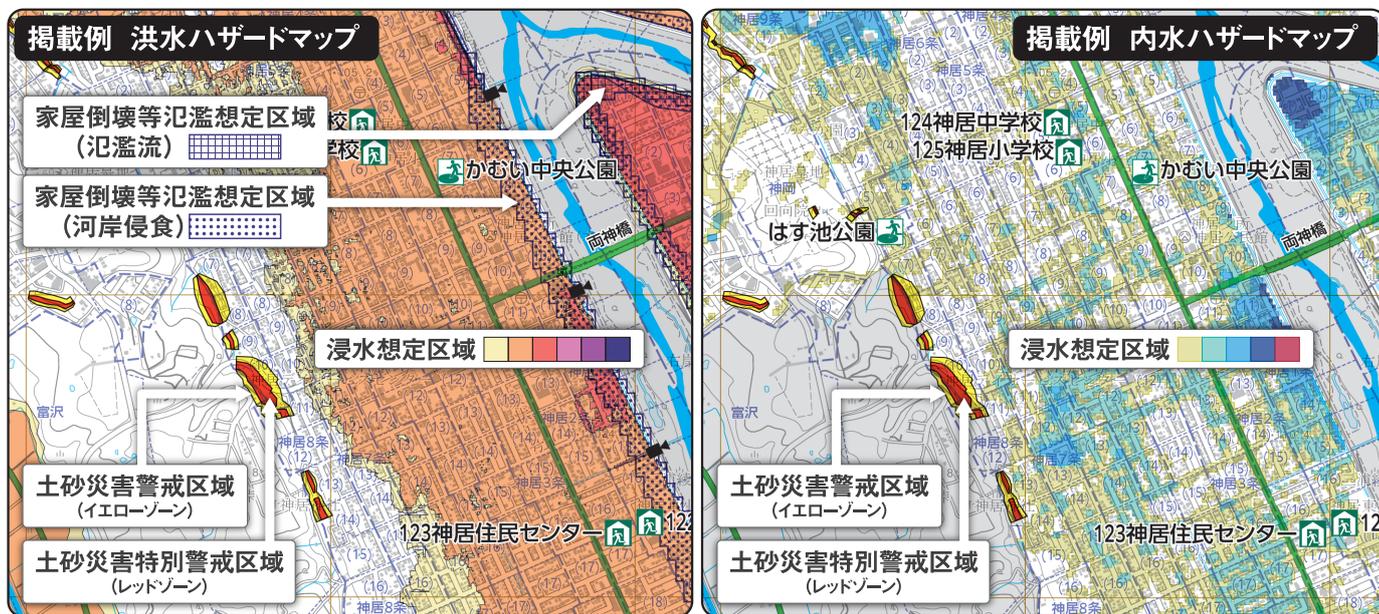
旭川で過去に起きた大雨 平成30年以降で24時間降水量が100mmを超えた事例

年月日	観測所名	日最大24時間降水量	被害状況	平成30年7月2日から3日にかけての大雨によるペーバン川の氾濫、忠和地区の浸水の状況	
平成30年 7月3日	瑞穂	146.0mm	ペーバン川、倉沼川、江丹別川、石狩川の氾濫、忠和地区の浸水など		
	江丹別	141.0mm			
	旭川	144.5mm			
令和5年 8月6日	江丹別	121.5mm	本市は被害なし(他地区では雨竜川氾濫など)		
令和6年 7月24日	江丹別	206.5mm	江丹別地区の農地被害、道路冠水など		
	旭川	112.5mm			



STEP 1 どこが危険なの？ ハザードマップの見方

洪水ハザードマップと内水ハザードマップ(11~37ページ)から、自宅、職場、学校など災害リスクがあるのかを調べてみましょう。



浸水した場合に想定される水の深さ

浸水した場合に想定される水深に応じて色を分けて表示しています。浸水の深さなどによって水害時にとるべき避難行動は変わるので確認しましょう。

洪水ハザードマップ	想定浸水深 (m)	浸水の目安	水害時の避難行動	内水ハザードマップ	想定浸水深 (m)	浸水の目安	水害時の避難行動	
	20.0m以上～(濃い青紫色)	8階以上が浸水	早期の 立退き避難が 必要な区域 マンションなどの3階以上は在宅避難も可能		3.0m以上～5.0m未満(赤紫色)	2階以上が浸水	早期の立退き避難が必要な区域	
	10.0m以上～20.0m未満(濃い紫色)	5階～7階が浸水			2階以上の部屋に垂直避難も可能 平屋は立退き避難	1.0m以上～3.0m未満(青紫色)	1階が浸水	2階以上の部屋に垂直避難も可能 平屋は立退き避難
	5.0m以上～10.0m未満(薄い紫色)	3階～4階が浸水			2階以上の部屋に垂直避難も可能 平屋は立退き避難	0.5m以上～1.0m未満(水色)	1階が浸水	2階以上の部屋に垂直避難も可能 平屋は立退き避難
	3.0m以上～5.0m未満(薄い赤色)	2階が浸水	2階以上の部屋に垂直避難も可能 平屋は立退き避難		0.2m以上～0.5m未満(薄い青緑色)	床下浸水	在宅避難も可能	
	0.5m以上～3.0m未満(薄い橙色)	1階が浸水	2階以上の部屋に垂直避難も可能 平屋は立退き避難		0.2m未満(薄い黄緑色)	床下浸水	在宅避難も可能	
0.5m未満(薄い黄色)	床下浸水	在宅避難も可能	浸水想定を行っていない区域(薄い灰色)					

家屋倒壊等氾濫想定区域

堤防沿いの地域で、洪水時に家屋の倒壊や流失が発生するおそれのある区域は、家屋倒壊等氾濫想定区域として指定されています。

マップ表示	区分	用語の説明	水害時の避難行動
	氾濫流	河川から流れ込む水の力により、建物が、倒壊・流出するおそれのある区域	早期の 立退き避難が 必要な区域
	河岸侵食	河川の激しい流れにより河岸が削られ土地が流出し、建物が倒壊・流出するおそれのある区域	

土砂災害警戒区域等

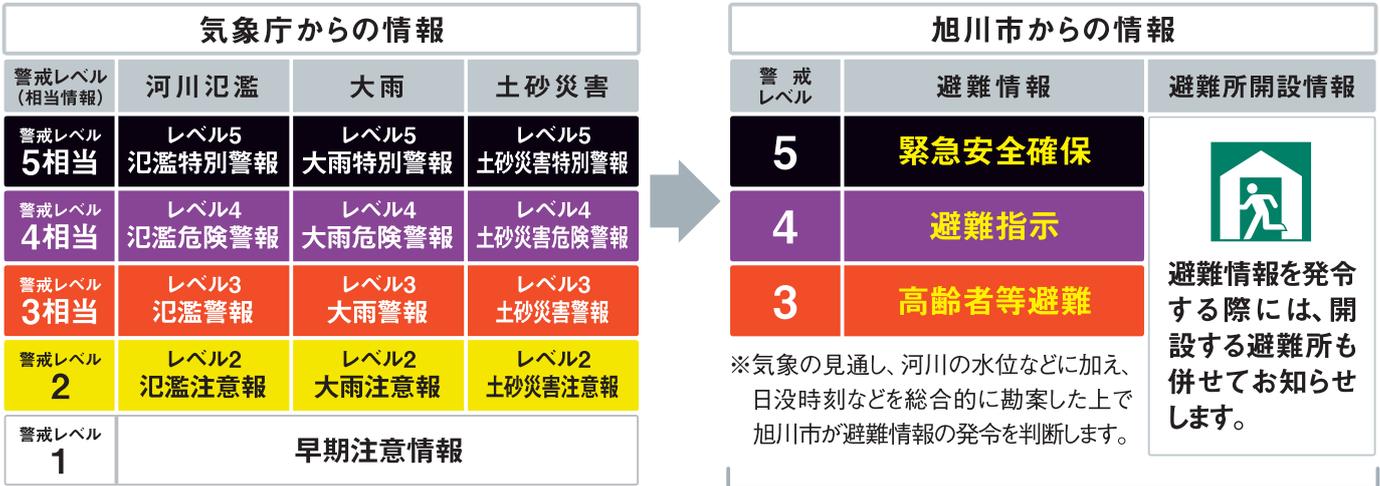
土砂災害防止法に基づき、土砂災害が発生するおそれのある区域は土砂災害警戒区域等として指定されています。

マップ表示	区分	用語の説明	土砂災害時の避難行動
	土砂災害警戒区域 (イエローゾーン) 土石流・急傾斜地の崩壊・地すべり	急傾斜地の崩壊などが発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域	早期の 立退き避難が 必要な区域
	土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン) 土石流・急傾斜地の崩壊	急傾斜地の崩壊などが発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域	



STEP 2 いつ避難すればいいの？ 避難情報の種類と避難行動を確認

災害が発生しそうなとき、気象庁などから出される防災気象情報や旭川市から出される避難情報をもとに、適切なタイミングで避難などの行動をとる必要があります。



令和8年より気象の警報などが大きく変わります

👉 **ここが変わった!**

- 警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されます
- 「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます
- 河川の氾濫の危険度の伝え方が変わります

旭川市からの避難情報の伝達ルート

報道機関
(テレビ・ラジオ)

広報車

緊急速報メール(エリアメール)
旭川市ホームページ・SNS
あさひかわくらしのアプリ

電話・FAXなど

市民のみなさんがとるべき行動

警戒 レベル 5	緊急安全確保	すでに災害が発生しています	命を守るための 最善の行動をとってください
～<警戒レベル4までに必ず避難!>～			
警戒 レベル 4	避難指示	危険な場所から 全員避難!	
警戒 レベル 3	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等は避難!	
警戒 レベル 2	避難に備え、ハザードマップなどにより自らの避難行動を確認		
警戒 レベル 1	防災気象情報などの最新情報に注意するなど、災害への心がまえを高める		

身の危険を感じたときには警戒レベルに関わらず避難。また、必ずしも段階的にレベル1から順に出されるとは限りません。



**まとまっぷ
ポイント**

風水害の気象・防災情報を調べる!

テレビやラジオのほか、インターネットやアプリなどで気象や河川水位などの情報を確認することができます。積極的に利用して避難行動に役立てましょう。

防災情報の入手先

防災情報の入手先一覧表は42ページに載っているので確認しましょう!



STEP 3

どこに避難すればいいの？

避難先や避難行動を確認

自宅が水害のリスクがあり、立退き避難をするとき、安全に避難できる避難先をハザードマップで確認しましょう。

避難所・避難場所はどこにあるのかを確認！



自分が今いる場所を想定してハザードマップで、避難所・避難場所の確認をしましょう。

災害の状況により「避難のしかた」が変わりますので、避難所以外の選択肢も考えておきましょう。

- ハザードマップ → 11～37ページ
- 避難所等一覧 → 45～46ページ

避難ルートをチェック！



自宅や避難場所・避難所までのルートに浸水や土砂災害のリスクがないか確認！

近くても危険がある場合は、そこを避けて避難しましょう。

危険箇所チェックポイント

- 冠水しやすい道路
- 土砂崩れが起きそうな場所
- 橋や川の近くのルート
- 高齢者らが避難しづらい坂道や階段
- ふたのない側溝
- 倒れそうなブロック塀や建物

より安全な場所に避難することが避難の原則です！

災害時、自宅が危険な場合は、より安全な場所に避難する「立退き避難」が必要ですが、避難先は避難所だけではありません。「親せき・知人宅」、「ホテルなどの宿泊施設」、「車両避難(車中泊※)」など様々な避難先に、分散して避難することも大切です。 ※車中泊は一酸化炭素中毒やエコノミークラス症候群などの健康被害に十分留意する必要があります。

危険性が高い場所にいる場合

避難① 立退き避難

指定緊急避難場所・避難所
危険なときは迷わずに開設された指定避難所などへ避難しましょう。



分散避難

指定避難所のほか、安全な場所に住んでいる親せき・知人宅や宿泊施設などへ避難することも検討しましょう。



危険性が低い場所にいる場合

避難② 屋内安全確保

在宅避難

災害リスクが低く、1週間程度の食料や携帯トイレなどの事前準備をしている場合は、在宅避難が可能です。



在宅避難をする際は、次の「在宅避難が可能となる3つの条件」を確認しましょう。

「3つの条件が」確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

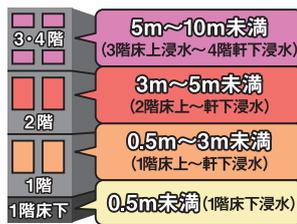
① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない(入っていると…)



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩壊するおそれがあります

② 浸水深より居室が高い



例：浸水時の水の深さ(洪水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分(十分じゃないと…)

水、食料、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります。



逃げ遅れたら…今すぐに命を守れる最善の行動(緊急安全確保)をする！

たとえば
こんなところへ逃げる！

- 自宅や学校、職場、施設の少しでも高い場所
- 近隣の高くて丈夫な建物で少しでも高い場所
- 土砂災害のおそれがある場所では、自宅の2階以上で、山や丘の斜面から一番遠い離れた部屋





STEP 4 どのように避難すればいいの？ 避難するときの注意点

旭川市からの避難情報に基づいて危険な場所から避難したり、自主的に避難する場合は、次のことに気を付けて安全な避難を心がけましょう。

大雨時は早期の避難を！

浸水が始まる前に避難

自分が住んでいる地域や近くの川の上流で、豪雨や長雨が続けている場合は要注意です。特に、高齢者や障がいのある方など避難に時間がかかる方は、早めに避難することが大事です。



避難は徒歩で！

風水害時での車の避難は、危険をとまなうことや緊急車両通行の妨げになるため、乳幼児、障がいのある方、高齢な方、郊外地域など、やむを得ない場合を除き徒歩による避難をお願いします。



暗くなる前に避難

大雨が予想されるときは、明るいうちに避難しましょう。暗くなってからの避難は視界も悪く、陥没している道路や側溝などに気づかない場合があります。



避難のとき注意すること

避難時の服装

荷物は少なく、動きやすい服装で避難しましょう。

濡れても安心な服装

傘はささず、足もと確認の杖がわりに

靴は底が厚く紐で締められる運動靴を！

長靴は厳禁！
水が入って重くなり動きづらく危険

非常持ち出し袋は両手が使えるリュックがオススメ！

非常持ち出し品のリストについては **44ページ** をチェック！

歩ける深さに注意！

歩行が可能な水深の目安は、ひざ下くらいまでです。50cm以上の水深は大人でも避難が困難となります。水深が腰まであったり、浅くても水の流が速い場合は無理をせず、高い場所(2階以上)に避難し救助を待ちましょう。

危険

水の深さ 50cm～

子どもは約20cmの深さでも危険です

足もとに要注意！

道路が浸水していた場合、水面下は水が濁っているため、どんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒や傘などを杖代わりにして水中の安全を確かめながら進みましょう。

側溝！

マンホール！
吸い込まれる危険がある

避難前にすること

家を出る前にブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど火の元を確認しましょう。また、家族や知人などに避難することを連絡しておきましょう。





STEP 5 マイ・タイムラインを作成して避難行動を決めておく

① マイ・タイムラインを作成して「家族の避難行動」を決めておきましょう!

マイ・タイムラインとは、台風や洪水などの進行型災害が発生した際に「いつ」「何をするか」を整理した「個人の避難行動計画」です。

あらかじめ「避難行動判定フロー」で確認した避難時期や避難先などの防災行動をマイ・タイムラインに時系列に整理しておくことで、災害時に「行動のチェックリスト」や「判断のサポートツール」として役立てることができます。

右の二次元コードよりマイ・タイムライン表を入手して書き込んでみましょう。

旭川市の
マイ・タイムライン
ダウンロード先



② これまでのSTEPを踏まえて避難のタイミングと適切な避難先を確認!

あなたがとるべき避難行動は? 避難行動判定フロー!

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。



※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。ただし、着色されていないところでも災害が起こる可能性がありますので注意しましょう。

自宅や学校、職場がある場所に色が塗られていますか?

いいえ

色が塗られているエリア外でも、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、旭川市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として※安全な地域に避難(立退き避難)が必要です。

例外

※在宅避難が可能となる3つの条件

- ①家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)・土砂災害警戒区域の外側に位置している。
- ②浸水する深さよりも高いところにいる。
- ③浸水しても水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にある。

ご自身または一緒に避難する方は、避難に時間がかかりますか?

はい

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親せきや知人はいますか?

はい

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親せきや知人はいますか?

はい

いいえ

避難情報が発令されたら...

警戒レベル3で避難

高齢者等避難

安全な場所にある親せきや知人宅、宿泊施設などに避難する。

警戒レベル3で避難

高齢者等避難

開設された指定避難所又は指定緊急避難場所に避難する。

警戒レベル4で避難

避難指示

安全な場所にある親せきや知人宅、宿泊施設などに避難する。

警戒レベル4で避難

避難指示

開設された指定避難所又は指定緊急避難場所に避難する。

早期の立退き避難が必要な区域の避難行動表

区分		マップ表示	避難行動と留意点
早期の立退き避難が必要な区域	家屋倒壊等氾濫想定区域	氾濫流	木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要です。頑丈な高層ビルなどの場合は屋内安全確保が可能な場合もあります。
		河岸侵食	家屋が倒壊するような河岸侵食の発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要です。
	家屋が水没するおそれがある区域	浸水深が3.0m以上	最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要です。浸水しない部屋がある場合は、屋内安全確保が可能な場合があります。



大雨・台風に向けて 日頃の安全対策

台風や集中豪雨では強風や激しい雨により、家屋への浸水、河川の氾濫、土砂災害など様々な被害が想定されます。風水害に備えて日頃の安全対策をしっかりと行いましょう。

○家の外の風水害対策をチェックしましょう！

- チェック10** 屋根の破損、アンテナのぐらつきがないか確認しましょう。
- チェック9** 窓や網戸のがたつきがないか確認しましょう。
- チェック8** 壁の腐食・浮き・亀裂があれば直しましょう。
- チェック7** フェンスやブロック塀の破損、ひび割れ、ぐらつきがあれば直しましょう。
- チェック6** 側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておきましょう。
- チェック5** 風で飛ばされそうな物(自転車や植木鉢など)は車庫や屋内に格納しましょう。
- チェック4** 灯油タンク・プロパンガスボンベはしっかりと固定しましょう。また、配管などのぐらつきを確認しましょう。
- チェック3** 浸水が想定される場所に土のうを設置しましょう。
- チェック2** 庭木が飛ばされたり、倒れたりしないように固定しましょう。
- チェック1** 屋根材がめくれたり、はがれたりしていないか確認しましょう。

家庭備蓄のすすめ

大規模な災害が発生した場合、電気・ガス・水道・通信などのライフラインや、物資の供給が止まる可能性があります。そうした場合でも自力で生活できるように、普段から自宅に飲料水や非常食などを備蓄しておきましょう。

備蓄品 復旧までの最低3日分～1週間分を目安に備蓄をしましょう！

- **食料品など**
 - 食料(お米、アルファ化米、カップ麺、缶詰、レトルト食品など)
 - 飲料水(1人1日3L目安)
 - 使い捨て食器(コップ・皿など)
 - ラップ・アルミホイル



- **生活用品**
 - ろうそく・ランタン
 - タオル類(バスタオルなど)
 - テント・タープなど
 - 燃料(カセットガスなど)
 - 予備の乾電池など
 - 着替え(上着、下着など)
 - カセットコンロ
 - 毛布・タオルケット
 - ポータブルストーブ

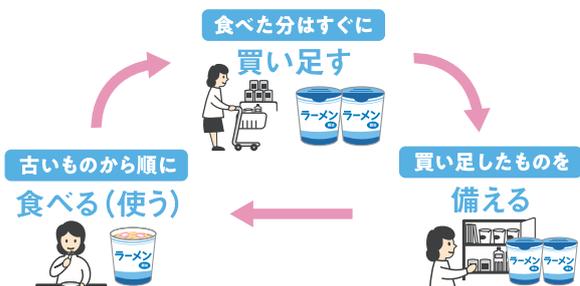


- **衛生用品**
 - トイレットペーパー
 - 使い捨てマスク
 - 非常用トイレ(1人1日5回目安)
 - 水のいらないシャンプー
 - ゴミ袋・ポリ袋
 - 歯磨きセット(洗口液なども)
 - サニタリー用品
 - アルコール消毒液
 - ウエットティッシュ



ローリングストックの実践で 日常的に備蓄品を更新！

食料や日用品を少し多めに買い置きし、食べた(使った)分だけ買い足し、備蓄をする方法をローリングストックといいます。賞味期限が短いレトルト食品なども非常食として扱えます。



局地的な大雨・雷・突風・竜巻に備える



風水害・土砂災害

急な大雨や雷・突風・竜巻から身を守るために

近年、局地的大雨(ゲリラ豪雨)や集中豪雨など、大気が不安定な状態でおこる大雨のほか、落雷や突風・竜巻などが増えています。突然発生する場合がありますので、それぞれの対策をしっかり覚えておきましょう。



こんな時は発達した積乱雲が近づいています **急な大雨・雷・突風・竜巻の危険** に注意!

- 黒い雲(積乱雲)が近づき、辺りが急に暗くなる
- ヒヤッとした冷たい風が急に吹いてくる
- 雷の音(ゴロゴロ)が聞こえたり、光が見えたりする
- 大きなつぶの雨や「ひょう」が降りだす

雷による災害

落雷

周囲が開けた場所などで直接落ちる

側撃雷

木に落ちた雷が枝などをつたって落ちる

雷が落ちやすい危険な場所に注意!



- ゴルフ・サッカー・野球などの屋外スポーツ
- 公園、海・山における屋外レジャーなど



雷から身を守るには

1 雷鳴が聞こえたらすぐ避難

屋外にいる場合は安全な場所に避難する。

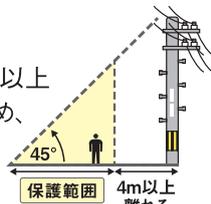


2 頑丈な建物や車の中へ避難

木の下に避難するのは大変危険です。

3 木や電柱からは離れる

木や電柱が近くにある場合、必ず4m以上離れる。あまり離れすぎると危険なため、右図の保護範囲内にとどまるようにする。



4 何もなければ「雷しゃがみ」

隠れる場所がない場合、右図の姿勢で雷が去るのを待つ。ただし、あくまで最終手段なので、まずは避難を最優先にする。



突風・竜巻による災害

屋根などの飛散

建物の倒壊

電柱・樹木の倒壊

飛来物の衝突

強い突風・竜巻では列車や自動車がひっくり返ることも!



突風・竜巻から身を守るには

1 頑丈な建物の中へ避難

車庫・物置・プレハブへの避難は危険なため、建築された頑丈な建物の中へ避難する。



2006年11月、佐呂間町で発生した竜巻では、プレハブが飛ばされ、中にいた従業員が亡くなっています。

2 樹木や看板などの飛来物に注意して避難

身をかがめ周囲に気をつけながら、近くの建物の中へ避難する。

3 建物に入れない場合

水路など、くぼんだ場所に身をふせて、両手で頭や首を守りながら、小さくかがんで危険が去るのを待つ。

4 屋内でも窓から離れる

窓や雨戸を閉め、カーテンを引いて、できれば家の中心部に近い窓のない部屋へ移動する。



ナウキャスト〈雨雲の動き・雷・竜巻〉(気象庁)

1時間先までの降水分布、雷の活動度、竜巻発生確度の予報を確認できます。大気の状態が不安定なときにはチェックしましょう!

気象庁のウェブサイト「ナウキャスト」▶ (旭川市付近)

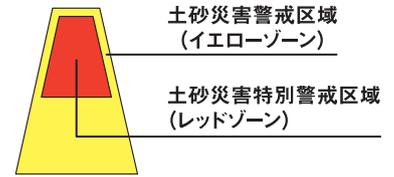




大雨や台風、地震が発生したときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず、自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。

土砂災害のおそれがある2つの区域

土砂災害が発生した場合、住民に危害が生じるおそれのある区域を「**土砂災害警戒区域**」(イエローゾーン)として指定しています。イエローゾーンの中でも、災害が発生した場合に建物が壊れて住民に著しい危害が生じるおそれのある区域を「**土砂災害特別警戒区域**」(レッドゾーン)として公表しています。



土砂災害の種類と前兆現象

次のような現象を察知した場合は、直後に土砂災害が発生する可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

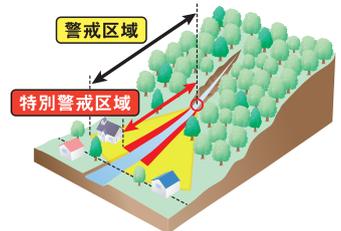
● 河川の異常な濁り

● 流木が発生
● 河川内の転石の音

● 降雨時での水位の激減
● 地鳴り・ゴーという音
● 土臭いにおい

土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。



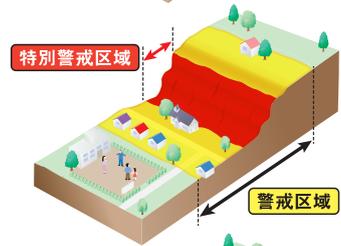
● 湧き水量の増加
● 表面流発生

● 小石がばらばら落下
● 湧き水の濁り
● 新たな湧き水発生

● 小石がぼろぼろ落下
● 亀裂発生、斜面のせり出し
● 湧き水の停止・噴き出し

急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)

雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。



● 湧き水量の増加
● 湧き水の枯渇
● 井戸水のにごり

● 亀裂・段差の発生・拡大
● 斜面・建造物のせり出し
● 樹木の傾き、根の切れる音

● 山鳴り・地鳴り
● 地面の振動

地すべり

雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。



土砂に関する防災気象情報に注意!

大雨による土砂災害発生危険度が高まったとき、気象庁から土砂災害に関する防災気象情報が発表されます。周囲の状況や雨の降り方にも留意し、危険を感じたら躊躇することなく自主避難しましょう。

線状降水帯に注意!

「線状降水帯」とは、積乱雲(発達した雨雲)が、線状に次々に発生して、ほぼ同じ場所を通過・停滞することで作り出される、非常に強い大雨のことです。線状降水帯が発生すると、長い時間、非常に強い雨が降り続き、土砂災害などの大きな災害の要因となる集中豪雨を引き起こすことがあります。

